

スタート
すたーと
START



とっちーとであう
(3すすむ)



こうじちゅう
(1もどる)



はっかくこで
さくらをみる
(1かいやすみ)



だい2ほいくしよ
であそぶ



たんぼで
あそんで
あしが
とれない
(1かいやすみ)



だい3
ほいくしよで
やさいを
そだてる



うみに
あそびに
いく
(2すすむ)

えんてい
かいほうに
いってあそぶ



ふくおかこどもえんで
どろあそびをする

とうがねっこすごろく



じどうかん
であそぶ
(1もどる)



はばのりを
たべる
(1すすむ)



とよなり
こどもえんで
しょうがくせい
とあそぶ



あたらしい
こどもえんが
できた
(3すすむ)



とうがねの園どうかね2 “とうがねっこ”



Contents

東金の公立保育所・認定こども園	2-3
学生は見た!東金の保育の“イイね”1 自然との出会いがすごい	4-7
学生は見た!東金の保育の“イイね”2 季節ごとの旬な遊び	8-9
学生は見た!東金の保育の“イイね”3 子どもが夢中になって遊ぶ	10-11
学生は見た!東金の保育の“イイね”4 保育環境がすごい	12
学生は見た!東金の保育の“イイね”5 保育者の受け止めがすごい	13
学生は見た!東金の保育の“イイね”6 食育7子育て支援	14
東金市の保育の魅力の素は	15
表紙と裏表紙:とうがねっこすごろく	

*記事は、学生が園の取材からまとめた記事です

【取材・編集】

大妻女子大学家政学部児童学科 石井章仁研究室 2023年度3年生

松田紗也香・緒方愛海・由見洸佳・林真衣・高橋未帆・吉田奈央・出口萌華・大橋由紀子・野口ポラマリア・高橋葵

2024年(令和6年)4月発行

とうがねの保育所・こども園



東金市立第2保育所

東金市田間3丁目14-6
★定員130名
「子どものやりたい」を形にする園舎の構造を活かした保育をしています。

東金市の保育目標

心を豊かにたくましく、
未来を生きる力を育む



東金市立第3保育所

東金市前之内6-1
★定員70名
小規模だからこそ、手厚い子育て支援と子どもとの深い関わりをしています。



東金市立豊成こども園

東金市関内724
★定員120名
自然を肌で感じられ、興味を持てるようにし、自然の中で遊んでいます。



東金市立福岡こども園

東金市砂古瀬476-1
★定員90名
「子どものやりたい」を尊重し、主体性を大切にしています。



東金市立正気こども園

東金市広瀬141-1
★定員81名
※令和6年4月1日正気幼稚園がこども園に転換



東金市立幼稚園・保育所・認定こども園
共通カリキュラム



東金市子育てガイドブック



東金市の保育 (東金市HP)

News!



東金市初の「公私連携型」の認定こども園が令和6年4月より誕生します。
公私連携の園は、行政と法人が力を合わせて運営をします。

2024 4月開園

東金国際こども園 東金市掘上71-1 (定員208名)

〈保育方針〉四季折々の自然の中で個性を伸ばし、のびのびと心豊かなたくましい子どもを育てる。



東金市立東金幼稚園

東金市立第1保育所



東金国際こども園



東金市

社会福祉法人
ユーカリ福祉会

『また明日も来たいと思える園に!』

おとぎの国をイメージしたとんがり帽子の屋根がシンボルです。図書室には絵本が4,000冊 (絵本の蔵書は10,000冊以上) あり、子どもたちが落ち着ける環境です。土管を潜ると茶室があり、茶道の体験などを通して子どもたちが日本の良さを感じられます。ひさが長く日陰ができるため、夏でも外の空気に触れながら遊ぶことができます。英語に限らずいろいろな言語や文化に触れられ、ICTを使って安全管理も万全です。(加藤博之園長)



東金の保育者の学び

東金市の保育所・認定こども園には、外部の有識者が参画しての園内研修と自己評価の作成を行っています。保育者が自らの保育を振り返るとともに、園全体の保育の質を検討し、次年度の保育に生かす取り組みを行っています。
詳しくは、保育所・こども園の自己評価をご参照ください。



保育所・こども園の自己評価



自然との出会いがすごい

東金で育つ子どもは、贅沢なほどの豊かな自然の中で育ちます

小さな生き物との出会い～センス・オブ・ワンダー～

外遊びの際に園庭でかえるを見つけた子どもたち。「かえるはこうやってもつんだよ」と言いながら大切に両手で覆っていました。

「僕の頭にカエル乗せて」と言い、飛び跳ねないか心配しながらみんな笑顔で見守っていました。

*センス・オブ・ワンダー；アメリカの生物学者レイチェル・カーソンが著書「センス・オブ・ワンダー」の中で述べている「自然の不思議さや神秘さに目を見張る感性」を子どもが体験することによって獲得すること。



“実のなる木”と子ども

園庭にブルーベリーの木があり、実を手にとっていました。子どもたちが収穫し、ジャムにしてみんなで食べる「食育活動」を行っています。他にもパッションフルーツやキウイなどの木もあり、子どもたちが収穫を体験したり実際に食べたりしながら季節の食べ物に触れ合うことができます。4歳児の保育室には子どもたちがブルーベリーを取ったり食べたりしている写真（保育ドキュメンテーション）がたくさん貼られています。また、日々の活動を保護者にも積極的に伝えています。



砂場での学び合い

砂場で、大きな穴を掘ったり、そこから細く川を作ったりして、水を流して遊びます。砂の感触や水の感触に親しみ、服が砂まみれになったり、全身水に浸かったりしながら遊びます。「冷たくて気持ちいい」と感触を味わったり、ペットボトルをつなげたパイプにホースで水を流そうと思っただけで遊べたりして遊びます。うまく流れなかった時に、年長児が「もっと高くしたらいいんじゃない？」と提案してスコップで砂をすくってパイプの下に入れ、高さを作ると水が流れやすくなった場面があり、遊びながら考え学んでいることが分かります。

異年齢交流を深めることを大切にしているので、年長の子どもが始めた遊びに年下の子が加わり異年齢で混ざって遊んだり、遊びが行き詰ったときに年長の子が案を出したりする中に「学び」の基本があるのだと感じました。



セミのぬけがら集め

「せみのぬけがらをあつめよう」という掲示が、子どもの見やすい位置に貼ってあります。子どもが季節（夏）や生き物に触れながら育つことを大切にすると同時に、数を量で表し、数の概念を育んでいることが分かります。



乳児と自然とのふれあい

0、1歳児の保育室で保育者が飼育ケースを開け、霧吹きで土を湿らせ、昆虫ゼリーを置こうとした時にクラスの子ども達が興味津々そうに集まってきた。保育者は、「大きいクワガタさんだね」と子ども達に声を掛けていた。

男児がクワガタを見てすぐに右手を飼育ケースに入れ、クワガタの脇を上手に持ちながらじっくりとクワガタを観察していた。

保育者は「上手にクワガタを持っているね」と他の保育者や子ども達にも伝えた。

保育室内にメダカの飼育ケースもあり、0、1歳児から日常的に小動物を飼育し、保育にも積極的に取り入れることの大切さが分かった。



虫とり

「トンボ捕まえたよ」「かえるいた」など、東金の園の夏は、子どもたちが生き物と関わる声が飛び交います。いろいろな生き物に出逢えるのも東金市の園ならではの良さだなと感じました。子どもたちは裸足で元気に走り回りながら、虫取りに夢中になっていました。

生き物たちとのふれあい

子どもたちが描いた「くさくん」の絵

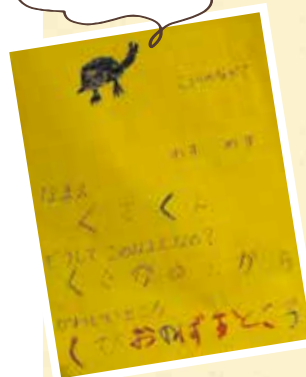
子どもたちが作った「くさくん」の紹介ポスター

かめのくさくん



子どもたちの仲間であり
ペットであり、かけがえのない存在である
くさがめの「くさくん」。

子どもたちは、かめの飼育を通して
かめの特徴・飼い方・性格も知っていきます。



クワガタやメダカ、チョウ、ザリガニ、カメなどの飼育ケースが乳幼児問わず各クラスにあり、飼育しています。子ども達が日常的に小動物との関わりや触れ合いがあります。

季節ごとの旬な遊び

夏

水たまりに全身浸かり、「冷たくて気持ちいい！」という子どもたちの声、泥まみれになりながら、全身を使って思うままに遊ぶ姿がたくさん見られます。

「雨だー！」と保育者が遮光ネットの上からホースで水を流すと、雨のようにぼろぼろ落ちてくるので、子どもたちは「雨が降ってきたー！」と楽しんでいました。洋服を着たまま水遊びする子、プールのコーナー以外で虫取りをしたり泥団子作りをしたりする子など、一人ひとり好きな遊びを行っています。

室内でも屋外でも裸足で過ごすことで、土踏まずや筋力を育てよう意識しているとのことでした。保育者は、子どもが裸足で遊びやすく、とげが刺さらないような工夫や人工芝やステンレス製のものにカバーを付け、やけどを防止するような対策をしたり安全面を配慮している。保育者は子どもたちに何かをさせることはせず、子どもは伸び伸びと遊んでいる。子どもたちが見つけた遊びを一緒に楽しみ、主体性を大切に保育が行われている。



秋・冬

園庭に広がる落ち葉の布団

園庭に集められた落ち葉のお布団に飛び込む子ども達。

迷いもなく飛び込む子、落ち葉に包み込まれお布団のようにして遊ぶ子や1人で真ん中に寝転び独占する子など落ち葉で沢山遊ぶ姿が見られました。



子どもが夢中になって遊ぶ

子どもが興味ある遊びを選択する・遊びを広げることができる環境がいっぱい

遊びのコーナーを設定して子どもが自ら遊びを選ぶことができる



レジやケーキなど手作りのおもちゃでリアルなごっこ遊びが楽しめます

子どもたちが自由に好きなものを作るよう、カップや空き箱など様々な素材を用意しています。
秋冬に取れるどんぐりや松ぼっくりなど木の実、落ち葉を使った制作なども沢山！



絵本コーナーには園によってソファやこたつなど



段ボールにそれぞれが好きなように絵を描きほかのおもちゃと組み合わせながら遊びを広げます。



アイスクリーム屋さん

エプロンと手作りのサンバイザーをつけた店員役の子どもは、カラフルに色付けした紙粘土のアイスを紙でつくったコーンに乗せて、トイレットペーパーの芯でできた台に乗せて「どうぞ!」。お客さん役の子どもは手作りのお金でアイスを買います。2段、3段重ねた「ダブル」や「トリプル」のアイスも再現していて本物さながら。



子どもの興味関心が広がるような保育

絵本を読んだことをきっかけに、海の中の絵を描いて、折り紙で魚を作り、夏休みに家族で水族館に出かけた子がこんな魚がいたよ話を、園庭側の窓にくらげをモチーフにしたサンキャッチャーを子どもたちが作り貼り付けました。ビニールでクラゲをつくったのでそれを保育室に吊るして海の中のような雰囲気をつくり、ブルーシートに手作り魚釣りを作り楽しめます。



「見る」ことは学び ～見て学ぶ後ろ姿

自由遊びの時間に突然外が気に入り、窓に張り付く子どもたち。目線の先にあるのは、3～5歳児のお兄さんお姉さんが園庭で遊ぶ姿。その姿をじっくりと見ている。

この後、少し外に出ると、かけっこをしたり、水で遊んだり、元気いっぱい裸足のまま園庭に走り出す子もいます。

まさに、年上の子どもの姿は学びのお手本のだと実感しました。



保育環境がすごい！

絵本コーナー

「絵本コーナー」＝居心地の良い空間としてつくる場

ただ本棚を設置して、子どもたちが自由に絵本を読めるようにして
いるだけではなく、手作りのテ
ーブルやソファを作って、空間づく
りを大切にしています。床も柔ら
かい素材のマットを敷いていたり、
ぬいぐるみも同じ空間の中に置く
ことで、子どもたちが心を落ち着
かせながら過ごす居場所になって
います。このような落ち着いた時
間を過ごせる空間を工夫すること
で、子どもたちは遊びの中でメリ
ハリのある生活を過ごすことがで
きるのです。



保育者と絵本をいっしょに楽しむ



男の子が、絵本コーナーから絵本を取り、保育者のところへ持っていく。
保育者は「おしくまんじゅう〜、ギュギュギュ♪」と歌に合わせて絵
本を読みます。保育者が歌うと、いっしょに体を左右に揺らしたり、頭
を縦に動かしたりなどしてリズムに合わせて楽しみます。
その姿を見て、さらに保育者は歌いながら子どもの体の揺れに合わせて
いっしょに揺れます。



保育者の受け止めがすごい！

子どもの表現

子どもの豊かな表現力と保育者のあたたかさ

「頭に何かついているよ」と言うと、女の子は満
面の笑みで後頭部を見せ「かわいいでしょ。ア
リエルなの！」と言った。子どもが洗濯バサミ
を使ってアリエルの髪の毛の特徴を自分なりに
表す表現力と、発想力がとても面白いと感じた。
こども園ではこのような子どもの自由な遊びが
当たり前に行われているのだと考えた。子ども
が考えたことや感じたことを表す物的環境と、
子どもの表現を受け入れる保育者のあたたかい
見守りや関わり方も豊盛こども園の魅力ではな
いかと考えた。



遊びを広げる工夫

「遊びを広げる」ための敷き段ボール



子ども達がブロックで遊ぶコーナーの床に段
ボールが敷いてありました。床に段ボールがあ
る事で、子ども達がブロックで作った物の世界
観で自由に絵をかいいたり、線路を描いたりと遊
べるような工夫がされていました。



食育

“楽しく食べる子ども”を育てる五つの目標

1. おなかがすくリズムのもてる子ども
2. 食べたいもの、好きなものが増える子ども
3. いっしょに食べたい人がある子ども
4. 食事づくり、準備にかかわる子ども
5. 食べ物を話題にする子ども



子育て支援

連絡帳やボード、口頭で保育の様子を日々伝えます！



ドキュメンテーション

日常の保育の様子を写真と文で
わかりやすく、育ちを伝えます！

東金市の保育の魅力の素は

大妻女子大学家政学部児童学科 准教授

石井章仁

私が東金市の保育と出会って8年が経ちます。この間、園内研修や自己評価の作成、東金市立幼稚園・保育所・認定こども園共通カリキュラムの作成等に携わりました。

1つの園に、年に2回ずつ計10回(2023年度以降は千葉明德短期大学の伊藤恵里子先生と分担)園を訪問し、保育の映像を撮り、保育者と語り合い保育を見つめなおしてきました。現場の先生方は戸惑いもあったと思いますが、とてもいい方向に変わっていき、子どもはのびのびしてきました。

先日、市内の園に研修に行くと、子どもと散歩して見つけた“いい場所”があると報告を受けました。子どもが「ブランコ森」と名付けたその場所は、倒れた竹や藁の絡まった木、子どもの背丈以上の草が生い茂る“森”でした。森では、保育者も共に遊び、夢中になって子どもと共に遊び過ごしました。子どもたちは午前中いっぱい遊び、満足しきって帰り、それでも足りない数名がテラスでご飯を食べました。

保育者は常に面白そうな場所を子どもと探し、その体験を次にどう生かすかを常に考えています。その後、園庭にターザンロープを設置したり、2歳児も森に遊びに行くようになったそうです。こうした自然は、東金の宝です。子どものころに自然に触れ、自然の中でセンス・オブ・ワンダーの感性を得ることこそ、学齢期以降の学びの原点となるのです。また、電車好きの子どもがいたら、園内を電車の線路や駅にして、遊びの中でみなが協同して作ったり、時に文字や数量の感覚を得たりするなど、子どもの関心や好奇心だけで終わらせず、探究したり、協同したりするようになりました。これこそが小学校以降の教育の土台となる学びの基礎となるのです。遊んでばかりいるように見えても、実は東金の保育には、学びの基礎になる要素がたくさん転がっているのです。

..... 東金市の保育が掲載されている書籍等

石井章仁(著)
見直そう！
保育現場のなぞルール
2023年 中央法規



石井章仁、古賀松香、堀科、
倉石哲也(編)
人口減少時代に向けた
保育所・認定こども園・幼
稚園の子育て支援
地域とともに歩む22の実践事例
2023年 中央法規



石井章仁(著)
社会福祉法人日本保育協会(監修)
エピソードでわかる！
クラス運営に役立つスキル
(保育わかばBOOKS)
2018年 中央法規



厚生労働省
保育をもっと楽しく
保育における自己評価ガイドライン
ハンドブック
2020年(作成協力園)

